



## 平成 27 年度公益財団法人櫻谷文庫事業計画

### 基本的考え方

櫻谷文庫は、大正 2 年に建築された木島櫻谷の居宅でもある有形登録文化財の和館（母屋、画塾）、洋館（公開を目的とした展示室、収蔵庫）、80 畳大画室などの建築物からなり、櫻谷作品、習作、写生帳や画材、手紙類など櫻谷の制作に関わる資料類、さらに櫻谷の収集した中世から近代にかけての伊藤若冲、長沢芦雪、渡辺崋山、池大雅、頼山陽、寂巖、荻生徂徠、貝原益軒を始めとする日本画関係書画、詩文集、書籍、典籍や朱子学国学関係、近代美術関係資料も含め一万点以上の資料を収蔵、これらの歴史的文化的資産の維持、修復、調査、研究、一般公開は一体となるもので、建造物、所蔵品の広く一般への公開、収蔵資料データベース化を通じ、美術、芸術の振興、学術研究への寄与、京都市を含む地域振興をめざす。また隣接する学校法人ヴィアトール学園と連携し、美術文化教育の推進のため一層の協力をすすめる。

### 公益目的事業

1) 公益財団法人泉屋博古館との共同での収蔵資料の調査、整理、データベース作成をすすめる。主に 2014 年度までには軸・屏風、色紙短冊扇面、332 冊の写生帖、約 180 の落款印、櫻谷愛玩品のうち雛人形調査は終了したため、本年度は約 220 冊の「スケッチブック」を中心に調査、スキャナーでの画像取込み、整理をすすめ成果の公開、展示に反映させる。経費の発生を抑えるため、調査、整理については臨時アルバイトを雇用せず、泉屋博古館学芸室実方葉子主査、櫻谷文庫業務執行理事門田節の 2 名で実施する。櫻谷捲り、古典書、画材、書簡類等が未着手。但し、2017 年に予定している「木島櫻谷展～動物画を中心に（仮）」に向け一部書簡については本年度着手する。

2) 2017 年秋に泉屋博古館本館（京都鹿ヶ谷）にて予定している「木島櫻谷展～動物画を中心に（仮）」に向け、櫻谷後半生の文展、帝展出品作品を 15 年間にわたり連続して購入した小津与右衛門氏所蔵作品の所在について、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団古石場文化センター（東京・深川）、松坂文化財センター（三重・松坂市）との連携により調査を実施する。さらに、第 4 回文展 3 等賞入賞作「かりくら」の修復助成を公益財団法人住友財団および公益財団法人出光文化福祉財団に申請する。「かりくら」修復概算費用は 4,103 千円。

3) 登録有形文化財・京都市重要建造物指定の「和館」屋根の修理に関し、京都市都市計画局に京都市市街地景観整備補助金の申請を行う。景観重要建造物「和館」の 2017 年補修、保全実施のため京都市市街地景観整備補助金申請のた



めの現状調査 工事内容：大屋根、下屋根瓦葺き替え（軽量化）、外壁、雨戸、木部破損部分修理、樋交換

▶経費補修費 14,044 千円（一次見積）計算上の補助金予定：5,617 千円

4) 櫻谷文庫関連情報の公開、櫻谷作品や登録文化財建築物の一般公開、京都市文化財マネージャー育成講座、泉屋博古館の博物館講習への実技実習協力の事業、立命館大学文学部京都学講義、立命館大学アトリサーチセンター、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科建築造形学部門演習への協力、併せて京都市 MICE 推進事務局に連携し、映画、テレビドラマ制作に協力する。

5) 地域連携、美術系連携、学術研究教育連携、映像等メディア連携を強化する。等持院等地域の観光スポットとの連携、衣笠地区の堂本印象美術館、高津古文化会館、「平野の家 わざ永々棟」等美術系法人、登録文化財関係法人等及び京都への来訪者の多い東京での PR 強化のため京都市東京事務所、京都館（東京・八重洲）、江東区文化コミュニティ財団との連携、京福電鉄(株)事業推進部、JR 東海京都・奈良・近江文化情報事務局、京都市観光協会（京都駅観光総合案内所を含む）、京都新聞社、NHK 京都との連携、情報提供を強化する。既存メディアだけでなくインターネット・メディア Facebook、Twitter 等の活用、継続的情報発信によりメディア・ミックスによる情報拡散を図る。大学講義演習関係 75,000 円、文化財マネージャー育成講座 20,000 円、関係映像制作協力関係 100,000 円の入場料を見込む。なお、これらは経費の発生はない。

6) 木島櫻谷の墳墓の維持管理を実施する。

7) 2016 年 3 月は、本年に引き続き「桃の節句」の時期の公開・展示を行う。入場料 504,000 円、人件費（10 日×5 人、4 日×3 人(門田 2 名無料)×5,500 円=）341,000 円、印刷代 30,000 円、雑費・通信費 20,000 円で収益 143,500 円を見込んでいる。

8) 随時公開については、グループ、団体等との時間調整の上実施する。20,000 円の入場料を見込む。

## 収益事業等

洋画家茨木捷彰氏の主宰する美術教室茨木絵画教室に画室をアトリエとして、また地域在住者を主な対象とする書道教室（講師：大脇双琳氏）、及び整美体操教室、（講師：井上敦子氏）に旧画室を教室として、主体展会員浜哲郎氏に和館の一部を制作室として提供する。

その他の事業として学校法人ヴィアートル学園との連携による教育支援活動を行う。

併せて、浜哲郎氏に提供している和館の一部の制作室の活用を検討する。